

国土地理院九州地方測量部と県測協の令和8年度「測量の日」記念講演会開く
最新技術の活用で業界の発展へ期待



最新技術や活用事例を真剣な表情で聞き入る参加者

国土地理院九州地方測量部・(一社)福岡県測量設計コンサルタント協会(福澤一博会長)は6月30日、令和8年度「測量の日」記念講演会を福岡県中小企業振興センター(福岡市博多区)で共催し、測量関係者ら約190人が参加した。「測量の日」は、国土交通省が測量・地図の重要性への理解促進を目的に、関係機関の協力のもと、6月3日を中心に全国で行事を展開しているもので、本講演会もその一環として開催された。

開会にあたり、福澤会長(株)スリーエヌ技術コンサルタント)は「本日は令和8年度「測量の日」記念講演会に、お集まりいただき誠にありがとうございます」と述べ、最新の測量技術や画像を活用した計測技術、ひび割れ計測手法など新たな分野の技術



あいさつの福澤会長

が紹介されることに触れた。そのうえで、「こうした新しい技術を学んでもらい、今後の業務に活用していただきたい」とあいさつした。

また、主催者を代表して国土地理院九州地方測量部の仲井博之部長は、福岡県測量設計コンサルタント協会と会員企業に対し、日頃から国土地理院の測量行政や地理空間情報活用の推進に対する理解と協力を示した。さらに、今年度は、より多くの関係者に最新の測量・地理空間情報



あいさつの仲井部長

の取り組みを知ってもらうため参加費を無料としたことに触れ「昨年度は約90人だった参加者が、今年度は200人を超える事前申し込みとなりました。多くの皆様にご参加いただき、大変うれしく思います。本日の講演が業務の効率化や生産性向上、新たなサービス創出を考えるうえで参考になることを期待しています」と語った。

プログラムの講演Ⅰでは、国土地理院測地部の若杉貴浩宇宙測地課長が「衛星SARを活用した国土管理の取組と今後の展開」と題し、衛星SARを活用した国土管理の現状と今後の展開などを説明した。講演Ⅱでは、国土地理院応用地理部の稲澤容代地理調査課長補佐は「防災・減災に役立つ地理空間情報の整備と活用」をテーマに取り上げ、自然災害リスクの見える化や情報整備の重要性について述べた。講演Ⅲでは、(株)ニコン・トリンプルジオスペーシャル事業部 マーケティング部西日本営業統括課の阿部武史九州・沖縄エリアグループ エリアマネージャーが「AI画像計測システムを使用したクラック調査の方法について」を紹介し、公共インフラメンテナンスの課題と従来技術との比較を交えながら、その活用の有効性を解説した。講演Ⅳでは、福井コンピュータ(株)九州営業所の南曲和也所長代理が「BIM/CIM最新動向と新たな点群活用法について」を解説し、BIM/CIMの現在と今後の方向性や建設業を取り巻く環境変化を示した。参加者は各講演に耳を傾け、今後の業務への活用を意識しながら聴講していた。

この講演会はCPD学習プログラム認定講座であり、ポイントの取得対象となっている。